

第 74 回山形県自作視聴覚教材コンクール 全体講評【社会教育部門】

地域に根差した題材を丁寧に掘り起こし、教材として残そうとする意欲的な作品が多く地域学の教材として活用できるものが多かった。いずれの作品も、各媒体の特性を生かした分かりやすく、親しみやすい構成で、子どもから大人まで幅広い世代に学びの機会を提供していた。また、見る者の感情を揺さぶり、その後の価値観や行動を問い直させる力を持った作品もあった。取り上げるテーマについて人に何を伝え、考えさせ、どのように後世に残していくべきか真剣に考えた上で制作に挑んでいるように見受けられた。事実に基づいた作品の場合、実際に現地に足を運んで取材したり、資料を丁寧に収集したりしているところに大きな価値がある。

出品された作品は、アマチュアが制作したとは思えないほど全体的に完成度が高い。紙しばい等は、描写力が年々向上していると感じる。また、映像教材等は、映像メディアリテラシー（映像の特性を総合的に理解し、映像を操るための知識、教養、能力のこと）が高まってきていることを感じた。

ここまでレベルの高い作品が集うからには、作品をどのような方法で後世に残していくかを考える時期にきているのではないか。丁寧に掘り下げられた「地域の文化」「郷土の魅力」を後世に伝えるための取り組みにも力を入れていく必要がある。